

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第16回）「体力の向上」部会 要点録

開催日時	平成22年9月30日(木) 午後3時33分～午後5時42分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	米津光治、工藤智昭、畑陽子、田中泰明、(敬称略)
	その他	教育出版
	事務局	渡辺浩一 指導主事

1 挨拶

事務局

本日が最終回ということで、今まで先生方にいただいた資料を一度総括したので、ここで確認をし、10月末に資料の仕上げに向けて最終調整を図っていきたい。

アドバイザー

いよいよこの資料作成委員会も、今日がひと区切りの会になる。これまでいろいろ論議を重ねながら、大変素晴らしい資料ができてきたと思う。

2 協議

事務局

事務局より、本日の配布資料について。次第と本研究冊子のページ配分の表が一つ。イラストの下書き例。それと体力の向上部会の「最終原稿 第1次案」。この冊子の中にあるさまざまなイラスト、これは原案で、本日お配りした「仕上がりイメージ」のようなかたちで統一して載せるということで、専門家にイラストを進めていただいているところ。

全体のイメージが掴めるように、この冊子にまとめた。本日は区切りということもあるので、もう一度各項目を洗って、修正点やご意見をいただきたい。

最初に全体を見て私から現状を説明する。第1次案をもう一度ご覧いただきたい。まず1ページから8ページ目が、中間報告で前回示した体力向上部会の基本的な考え方から、重視する指導項目等を説明したもの。9ページからが具体的な指導案。まずマット運動で、工藤先生を中心に作成のもので、14ページまで。15ページが新体力テストの結果の活用で、小学校の第4学年、工藤先生。19ページに本区の体力調査。新体力テストの実施の中で、第一学習社から送られてくる個人表のサンプル。これを参考に載せてある。20ページからは、中学校の新体力テスト結果の活用ということで、内田副校長先生。ほかの方々との形式に若干相違があるが、最終仕上げの段階でもう一度合わせて作成いただく。25ページに仮で「体力のあゆみ」とあるが、今高橋先生に作成いただいております、4ページ。イメージは、新体力テストのそれぞれの項目を、折れ線グラフのようなかたちで自分で表記できるような、9年間を通して自分の体力の結果の推移が、種目ごとに見とれるような資料。29ページからが田中先生の健康な体づくりを目指した授業案、後半にはチェックカード、その見本を含んでいる。33ページに載せている写真は、著作者に許可をいただこうと考えている。原本は今学校にあるか。

委員

個人持ち。借りることはできるが、載せないなら載せないで消してしまってもいい。

事務局

あるとすごくイメージは取りやすいが。

委員

このパネルシアター自体も売っているもので、このイラストもセットで売っているものだと思うので、ちょっと面倒くさい。この男の人のエプロンも全部セット。

事務局

これは、許可を得るにはこちらが提示するものとしては、何を用意すればいいか。

教育出版

その本の奥付のコピーが必要。あと本文の中から何かを取っているのであれば、その部分のコピーが必要。

委員

たとえば 30 ページの 5 番に参考文献としては載せている。どうすればいいか。

教育出版

下に並べてあるものがページを拡大コピーしたものなら、その該当部分のコピーが必要。

事務局

田中先生、この本の奥付の写しを 1 部。そしてこの掲示してあるものが本文の中の写しであるのか、別にセットであるのか。それをまず確認して、本文のコピーならば、その部分のコピーが必要。そして別のセットであれば、いらないうこと。

あと、チェックカードの順番はこれでよいか。前後させてほしいというものがあれば。

委員

畑先生のものもあるので、まとまったほうがいいと思った。パッと見て、微妙な変化だからわからないかと思ったりもした。実際、このカードは私の指導案のほうには入っていない。教えて私のところに無理やり入れる必要はないかと思った。

事務局

畑先生、このあたりの流れとしてはどうか。

委員

見やすいほうで、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期でもいいかと思う。

事務局

ではここをまた調整する。チェックカードを後ろに。

委員

37 ページの「はやね・はやおき・あさごはん」というのが、ずっと1年生からやっていることなので、説明書を付けなかった。もしまとめるのであれば、説明書きもぜひ最初に載せていただきたい。

委員

逆にページ数を減らすのであれば、Ⅰ期からⅢ期みたいな感じで表してもいい。チャートなんて、ほとんど変わらない。少し言葉を変えるだけ。敢えてこれは各期間を載せる必要もない。データがあればいいので、使いやすいようにしていただいて。

事務局

中学生段階の子どもの内容は、運動と排便が違う。

委員

これは変えていただいたと思う。まとめるなら、37、38 が説明書なので一番はじめになればわかりやすい。

事務局

あと 34、35 で、その次が 41 か。

委員

36 はなくてもいいかもしれない。それで畑先生の内容を付けてしまえば、見やすい。6 ページ、3 枚で。

委員

実際にこのシートを使ってどのようにやるかが正直わからなかった。項目を変えて載せたということで、実際に私もやっていないので、この 20 ポイントが合うか合わないか、正直わからない。小学校の先生に確認していただかないといけない。

事務局

最初に 37、38 が来て、次に 34 がチェックカードのⅠ期。35 が第Ⅱ期。41 ページの第Ⅲ期がこの指導案の後段に来る。指導案が第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期と揃う。そのように直す。

あと全体的なところ。43 ページからが宮野副校長先生。健康安全体育的行事ということで、集団の遊びなど。47 から 54 は A4 判に 2 ページずつ載せているが、実際には半分に割って一つを 1 ページとしたい。後でこの運動の内容も最終的なご意見をいただきたい。

55 ページが部活動で、東京都の教育庁指導部指導企画課から出されている「部活動基本問題検討委員会報告書」の中で、部活動の教育的意義が示されたところを抜粋した。57 ページから

は、実際に桜小・中で既に実施している部活動の要綱、方向性を参考資料で載せる。59ページには顧問の先生の名前が入っているので調整を取っていきたい。これで予定が現段階ではぴったり 60 ページ。皆さんで集まるのは今日が最後なので、今後修正いただきたい箇所をそれぞれの先生方に伝え、事務局で今一度修正したものを回収する。その後は、各担当の先生、アドバイザーの米津先生や委員長である赤木校長先生や中村校長先生と内容を確認させていただき、最終原稿を仕上げるとい流れにしたい。

それでは内容の確認に入りたい。

まず、体づくり運動の運動例を難波先生に作成いただいている。大きな流れとしては4点。1点目が47ページの自分のからだの安全を守るうごきを高める運動例。それから本区の体力の課題となっているものを高めるための運動例。51ページで敏しょう性、52で投力。53、54で力強いうごきと持久力。今イラスト化の最中ではあるが、意見をいただければ。

現段階で、例えばダルマ転がりは、膝を抱えるというよりは足の裏を合わせて足首を握っているような状況で回るかたちのほうが一般的に行われているのではないかと。また手押し車の姿勢から前転を行う運動が、下書き例の真ん中の図になる。この図でパッと理解できるか。何か必要なイラストはないか。安全面に対してどうかということも意見をいただきたい。

アドバイザー

47、48の右側の、腕でからだを支えるうごきの真ん中の下、「手よりも足を前にうさぎとび」。この絵だとちょっとわかりにくい。

事務局

これはどういう動きになるのか。

アドバイザー

うさぎとび。手よりも足を前にするという事は、いつの段階でどうするのか。この前もイメージできなかった。いずれにしても、このイラストは間が必要だ。

委員

間がない。手と手の間に足を持って行って、たぶんもっと足が上に上がるのではないかと。先の手押し車の姿勢からの前転も、間がない。勘違いされると困るのは、マットがないと非常に危険だ。マットの絵はたぶん出てくると思うが、ないと今の子たち、特に小学生は危険ではないか。

事務局

原本も二つの絵しかなかった。一つ思ったのが、たとえば肩に1回乗せて、足を掴んだ状態から肩に乗せて、倒立前転の補助のようなかたちまで持って行って、回転なのかと思った。

アドバイザー

逆にそういうイラストを載せて、高く上げることを明示してしまうと、腕力のない子が後ろの子に足を高く上げられてしまったときに危ない。

委員

首がこう入っているところの様子が入ればいいのではないか。支えている子が上に上げていて、この丸まる子の頭が入っているところのイラストが入れば、イメージはつく気がする。ダルマ転がりは、私も言われたような感じ。

事務局

原本は、足の裏と裏をくっつけていた。

アドバイザー

あくまでも体づくりの運動事例だから、そうしなければいけないということはないが、私もこのイラストは気になった。ここに載っているのは全部、古いバージョンが載っている。

委員

「バービー運動」ってなんだ。

アドバイザー

立位からしゃがんで、腕立ての姿勢をして、また元に戻る。どちらかと言うと瞬発力、敏捷性。短い時間で何回できるか。知っている人はイメージできるのだが、これだとイメージできないかもしれない。

委員

これは③をもう一つ増やせばいいのではないか。

事務局

①と②の間に③が必要。

事務局

あと 47 の最初の図、「ローリング」の隣の「前転や後転」。今日の下書き例の一番上。手を使わない前転が示されているが、安全を守ることに限っては、高橋先生にも聞いたところ、手をつくことが大前提。つき方が注釈で示されているので、ここは手をしっかりついたほうがよいのではないか。

委員

膝が少し曲がって、それほど高いところからやらないので、着手は必要ないかもしれない。膝をもっと曲げてしまえばいい。でも器械ではないので着手があったほうがいい。

事務局

あとは普通の後転であれば耳元に手を持ってくるが、柔道の受け身のような感覚で後ろに転がるときに、手をこのようにつく意識があるだけでも手首を守ることができるという話も聞い

た。そういう運動例を載せるのはどうなのか。

委員

「前転、後転」ではなく、「前転がり」、「後ろ転がり」としてしまえばいい。「前転、後転」にするからそういうイメージになってしまう。後ろ転がりも表現が難しい。

事務局

49 ページの先ほどのひざつきブリッジはどうか。

アドバイザー

いない。

委員

壁にこうやっているものは、どのようにやるのか。

アドバイザー

壁を触る。

委員

それなら壁はいらないか。こちらのほうがバランスが取りやすいんじゃないか。真ん中のイラストとの違いは、たぶん地面に手がついている。組体操の片手バランスの意味かと思った。

アドバイザー

このままだと、たとえば右側のイラストの壁を取ってしまったときに、2番目と3番目の違いがわからない。

委員

組体操の肩倒立とか首倒立とか1人技を載せてしまえばいい。それをゲーム化させたりする必要はないのか。

事務局

これを使って、あとは先生方がいろいろアレンジをしていただければということで、運動の紹介。⑤の「肩の運動」。

委員

からだの柔らかさを高めるうごき。これでいいのか。これは肩ならし。柔らかさとはまた違う。いろいろな体制から前転してとる、というものは、どこかに載っていたのか。これは1人でやるのか、ペアか。

アドバイザー

これだとペアに見える。よくやるのは、自分で投げ上げて、回転して取るというのはある。

委員

左側の「距離を伸ばす」もこれは1人で投げて取るみたいな感じか。

アドバイザー

この「ボールキャッチ」のところは、素早い動きにつながるのか。ほかに何か違うものがあるといい。同じように、一番下に文字で「音楽を取り入れたエアロビックエクササイズなど」と書いてあるが、これはむしろ持久力のほうに入れてしまったほうがいい。

委員

「エアロビ」とか「エクササイズ」と言葉で入れているのか。持久力を高める運動。「サーキット運動」。中学生みたいだ。

アドバイザー

もしボールのところを入れるのであれば、18 ページの表の右から2番目は「動きのすばやさ・器用な身のこなし（びんしょうせい）」で、ボールのことが入っても問題はない。この古い「素早いうごき（敏しょう性）」だと違和感がある。だから18ページの表現がいい。

委員

ということは、構成をやり直したほうがいいということか。その中で投力は突出させて入れる。何かもっとほかはないか。うちはボールの前段階で、ボール以外に投げると音が出るようなものがある。ロケットみたいなものを、最近やらせている。そういうのも一つかと思う。

アドバイザー

ここでは「投げ方の技術的指導」しか書いていないが、前にこれを検討したときに、たとえばオーバーハンドスローを低学年、中学年に指導するときに、何をポイントに指導するかを明確にするとか。全部をイラストで表現するのではなくて、そういうことがあってもいい。

委員

突出してドッジボールと入れるのはいやだ。勘違いする人がいっぱいいると思うので、やめたほうがいい。入れるのだったら、まとあてとか。ドッジボールだけ入れると、非常に危険。

事務局

この一番下に「投げ方の技術的指導」があるので、ここに箇条書きでポイントが示されるとよい。投げ方のポイントを示すとなると、具体的にはどういう段階が挙げられるか。

アドバイザー

投げる方向におへそを向けない。横に向ける。利き手と反対側の腕、肩を投げる方向に向け

るとか。全部同じことで、要するにねじれていないと、手投げだけになって飛ばない。

委員

小体研でもお話しいただいている。はじめ幼稚園生たちは足を揃えてこういう投げ方。それが第一段階。そこから効き足ではないほうの足が出る。それで足が反対側になって、最後は体をひねって投げるといふ5段階くらいの動きがある。資料は探せばある。2年前くらいから言っていて、話は聞いている。

アドバイザー

たとえば、この段階の子どもにはこういう指導みたいなことを入れてもいいだろう。このへんは小学校の低・中くらいの段階での指導になると思うので、そこは小学校の先生に文言とか指示の仕方を確認したほうがいい。他に「サーキット運動（例）」というの、表現を変えたほうがいい。厳密に言うと、これはサーキットではない。サーキット運動は基本的には、コーンが置いてあるところで何か別の運動を入れていく。これは基本的に、緩急をつけて、という感じ。

事務局

今の左側の53ページの力強いうごきを高める運動で、上の二つ、「押し合い相撲」、「引き合い相撲」は足が動いたら負けということ。注釈があるといい。あと「背負い歩き」、「手押し車」。「人を引いてうごかす」。

委員

立った状態でやらない気がする。たとえば雑巾をお尻に敷いて引くとか。怖いので、あまりやらない。手が滑って頭をぶつける可能性がある。私がやっているのは棒引きの棒。

アドバイザー

上の二つがあれば、なくてもいいかもしれない。

委員

「ハーフスクワット」。部活みたい。「片うで片足上げ」。懐かしい。ゆっくりやっていくイメージ。「四つんばい、うつ伏せ」はどういう意味か。

アドバイザー

膝をついた姿勢で片手と片足を上げるのと、まったくうつ伏せに寝た状態から手と足を浮かす。そういう意味ではないか。

事務局

手と足は交互。「腹筋」。「ハーフスクワット」。「足を上げる」。「体をひねる」。一番下の「体をひねる」というのは、矢印か何かがあったほうがいいのかもわからない。

先ほど、18ページの運動の言い方とある程度整合性があったほうがいいのかということだった。

たとえば47ページの「自分のからだの安全を守るうごきを高める運動」。これは、ここに該当するものがないが。

アドバイザー

これは体力というよりも、むしろ破折事故防止という観点で作ったから、このままでいいのではないか。ここは「うごきの素早さ・器用な身のこなしを高める」などとしたほうがいい。「力強いうごき」も「筋肉の力の強さ」とか「筋肉の長続きする力を高める運動」とか。18ページの表記がいい。持久力も同様に「運動を長く続ける力を高める」とか。

要するに、たとえば「自分のからだの安全を守る動きを高める運動」は、このように出てくると何か唐突だ。だからそういう解説はいらないかもしれない。

それから以下の体力の中でも、特に「投げる力」と「素早いうごき」で、なぜこれだけなのかという疑問が出てこないか。だからその解説がどこかに1ページ入ってもいい。「こういう考えがあったので、以下に示すような運動事例を参考に組み込んでほしい」みたいな。

委員

1年生から9年生まできつとやると思うので、子どもたちの発育段階に合わせるとか、安全に配慮することが必要ではないかと思った。特に首とかすごく危険かと思う。

事務局

難波先生は小学校の中、高学年、中学生をイメージして、作っている。それも触れて、低学年で活用する場合は難易度の易しい運動に替えてということも入れたほうがいい。

アドバイザー

そもそもなぜ高学年以降をイメージしたかということ、低学年とか中学年向けの体づくり運動の事例は既に文科省から出ている。そういうものを参考にできるのだと。だから今回は、そこではないところにターゲットを当てたということを明示したほうがいい。

事務局

47ページから。運動例で意見をいただいたところをもう一度確認したい。

一つが、なぜこういう体の安全を守る動きを入れたか。背景としては本区においても非常に破折事故等が頻繁に起こっている現状がある。それでこの事例を挙げた。また小学校低学年段階では文科省等の資料が豊富にあるから、高学年もしくは中学生期の運動例を挙げた。低学年等で活用する場合にはこの動きを易しくしたり、工夫をして活用されるという注、前段階の説明書きを入れたらどうか。

運動の内容として、47ページ。①からだをまるめて回転するうごきは、手をつくことを入れたほうがよいのではないか。そして「前転」、「後転」を、「前転がり」、「後ろ転がり」などとする。後ろ転がりに関しては、手のつき方。向きを変えてついたり、後転のイラストが前転とは別にあってもよいのではないか。ダルマ転がりは、足の裏と裏をつけるようなかたちのイラストにしてはどうか。それと「二人で」というところで「手押し車からの前転」。この手押し車の状態と前転をしている状態の間に、少し足を伸ばして支えているようなイラストをもう1個入れて

はどうか。右側の「高いところから」というところ。踏み台になっているものを、跳び箱の最初の1番上の跳び台に換えてはどうか。それから右側の②うででからだを支えるうごきの真ん中あたりで「手よりも足を前にうさぎとび」の図。この間にしゃがんだようなかたちの図を一つ入れたらどうか。その下、「バービー運動」。①と②の間に③の図をもう一個入れてはどうか。

49、50 ページの④からだのバランスをとるうごきで、一番右の壁はなくてもよいのではないかな。一応すべてのイラストには床面というか、マットを書いたほうがよいのではないかな。その下、丸で「危険ではないか」と書いてある「ひざつきブリッジ」はカットしたほうがよいのではないかな。⑤からだの柔らかさを高めるうごきの「肩の運動」の左側。これは壁の面があったほうがわかりやすいのではないかな。51、52 ページ。この表題の「素早いうごき（敏しょう性）を高める運動」を、「うごきの素早さ、器用な身のこなしを高める運動」として、18 ページの文言と合わせる。そして真ん中はこれを1人でやっているのか、ペアでやっているのかをわかるようにということ。「用具を使ってボールキャッチ」は1人か、2人ペアか。

委員

1人では無理でしょう。

アドバイザー

でもわからない。自分でボールを投げ上げて、段々距離を伸ばしていきましょうと。この「距離を伸ばす」というのは逆にそういう意味ではないのか。ボールキャッチは、2人のキャッチボールの遠投力ということではないのだろう。きっと投げたボールを追いかけてキャッチする。2人にしろ、1人にしろ。

委員

2人なら、この上のものを使って四つんばいにさせて、「ゴー」と言ったら振り返ってボールを取るとか。そういう工夫はできる。

事務局

これは難波先生に確認する。ここが一番下の「音楽を取り入れたエアロビックエクササイズ」を持続力の項目に移動させてはどうか。投げる力（投力）で、「ドッジボール」は省いたほうがよいのではないかな。それから一番下にある「投げ方の技術的指導」で、具体的な投げ方の段階を示したらどうか。

そして53、54 ページ。力強いうごき。これは18 ページには「筋肉の力の強さ」とか。これは「力強い」でも問題ないかな。「引き合い相撲」、「押し合い相撲」で、たとえば※で「足が動いたほうが負け」と注釈を入れてはどうか。真ん中の「背負い歩き」、「手押し車」、最後の「人を引いてうごかす」。これはなくてもよい。真ん中の「ひざつきのうで立て」、「ハーフスクワット」。

「片うで片足上げ」は、手と足は逆。これは注釈を入れなくてもイラストがそのようになっていればわかる。一番下の「からだをひねる」には矢印を入れてはどうか。あと「ハーフスクワット」と「腹筋」はどうか。このまま載せておくか。5、6年。中学。

委員

「腹筋」とか「ハーフスクワット」というと何かトレーニング的。

委員

背筋も入れたほうがいい。渡邊先生が引つかかるなら止めてしまったほうがいいのか。

事務局

右側の持久力を高める運動。これはこれでいい。「サーキット運動」は言い方を変えたほうがよいのではないかな。

委員

「運動例」などとしてしまえばいいのではないかな。

委員

いきなりだから、最初の前説はあったほうがよい。結構危なさそうな回転系は、もうちょっと注意事項を書いておいたほうがいい。例えば手押し車の前転をどうやらせてよいか、基本的にはわからない。だから持ち手のほうがどうやって操作をして腰まで上げてあげるのか、現実的に厳しい気がする。

委員

回ると決めたら動かない。それしかないのではないかな。

委員

歩いて、1回止まって、その瞬間に回してあげるのではないかな。だから手押し車からの前転よりも、歩かないのであれば、肩に背負って上げてあげて、斜め支持のかたちから回転のほうがいい。よく組体操で滑り台みたいにする。あのかたちにして、しばらくしてから押し上げていって前転とか。補助もこの状態で止まって、しばらくして上がってぐるんと回る。それならできると思う。

事務局

難しい。畑先生、中学生の女子をイメージして、肩に足を乗せて伸ばして前転。

委員

肩までがたぶん上がらない。持ち替えるところと、上げるのはかなり厳しいのではないかな。

委員

結局、手の位置よりも腰の位置が後ろにあると回れない。自分でも回るときには手の位置と腰の位置がかなり近くなって、ぐるっと回る。その位置を作ってあげなくてはいけないので、回れないと思う。手押し車だと結構厳しい。

事務局

では難波先生にカットにするか確認してみる。その他の運動例はどうか。

委員

「投げ方の技術的指導」は言葉だけだとわからないので、イラストでもいいから、第1段階、第2段階はこんな感じとあるとわかりやすい。

事務局

現段階では、この運動例は今のところを手直しするということではよいか。

9ページ。マット運動の指導案。14ページの開三小の資料から抜粋したものだが、これも今、同じようなイラストに変えてお願いしているところ。特にあれから内容的な修正はないか。

委員

もうほとんど変えていない。

事務局

あとその次の体力について考える。19ページのもの第一学習社から送っていただいたもの。これは架空の数字で、見本用。これも著作の関係が出てくるので、教育出版のほうで確認を取っていただく。20ページの内田副校長先生のところは、もう一度形態を直していただく。田中先生のところが、先ほどの著作の確認。

委員

あと学習カードの見本が、計算が全然違った。もう一回直す。すいません。

アドバイザー

もし直しが入るのであれば。チェックカードに一週間と言ったときに、金曜日まででいいのか。つまり横版にはならないか。これはA4の縦になっている。土日がないということの説明はいらない。いらないというか、それは「なぜ金曜日までなのですか」というのは、学校でチェックするからか。もう一個、36ページと38ページにあるチャートの点数はどのように入ってくるのか。この0、1、2、3、4、5というのは、何がここに入るのか。

委員

説明を入れたほうがいいのか。たとえば寝た時刻が0、1、2、3、4、5とある。これは1日目、2日目という意味ではなく、5日間の中でたとえば寝た時刻が9時半をクリアしたのが、今回だと3回ある。なので、ここは3になる。

委員

目標がクリアできると1点入る。

委員

これは私の見本がおかしい。説明書が 38 ページにある。ここに説明を入れたほうがいい。

委員

もし中学のほうも可能であれば、いいか。

委員

今思ったが、チャートが足りない。5種類になって 25 ポイント。運動時間を付け足したことによって、月曜日に就寝、起床、朝食、運動、運動時間という 5 項目になっている。小学校までは 4 項目だった。5 項目×5 日間なので 25 ポイント。チャートも五つにしないと項目が足りない。運動時間はチャートにできない。どうすればいいか。

アドバイザー

この考え方だと、たとえば 41 ページの就寝時刻は何時と自分で設定する。それと同じように、目標の運動時間を決めさせて、それがクリアできたらポイントという発想なのか。

委員

では、このチャートは五角形になるということ。

アドバイザー

それでやると五角形になってしまう。そうではなくて、ただ運動したか、しないかということだけで言えば 4 項目でもいいのかもしれない。そうすると 20 ポイント。

委員

あと、運動時間を何分と設定するか。運動を行った、行わないも、たとえば 5 分の運動は運動と言えるのかということもある。これも連動させたらどうか。「運動 (30 分以上)」にして、「行った」、「行わない」とするとか。そういう目標を、たとえば設定したものを、ちゃんと自分なりにやったら「運動した」ことにする。そうすれば四角形でできる。運動を「行った」、「行わない」も難しくないか。時間とも質とも関係する。

委員

たぶんこのイメージは、学校の体育以外のところ。

委員

ここは運動と運動時間を分けるのか、リンクさせるのかで、やらせ方は変わってしまう。

委員

そうすると、運動時間の基準ラインがどの時間がいいかというのは非常に難しい。部活動をやっている人間が出てきてしまうので、時間が多からよいいというわけでもない。

委員

そこも含めて自分で決めさせるのはダメなのか。何分以上やったら運動をやったということにしておくとか。

委員

体育の授業以外で運動を行った。何分くらいがいいのか。

アドバイザー

時間で測るのは難しい。運動の強度の問題があるから一概には言えない。それは本人に決めさせればよいのではないかと。30分、40分、60分とか。

事務局

たとえば四つ目の「運動」の下に括弧があって、「何分」と書いて、自分で書き込む。

委員

書き込んでおいて、それをやれたら「行った」ことにして、1ポイントにしておけば。たとえばそれが終わって、次のステップに行くときにちょっと時間を増やす。たとえば軽く20ポイントできてしまうようであれば、運動を40分とか、目標値を立てたりとか。そのへんで意識的にやるのも手だと思うし、いろいろなやらせ方があると思う。せっかくここまでできているのだったら、このレーダーよりも、こちらをいじるほうが簡単ではないか。

事務局

運動時間をカットして、1個詰める。その代わりに、この運動の下に括弧を入れて、(〇分)と。

委員

自分たちなりにこの時間をやったということになれば、体育以外で運動に取り組んだと。それさえやらなかったら「行わなかった」みたいなことで。各人が違うと思う。

委員

強度と質の問題が違うと私も思う。だから一概に言えない。

委員

やっていない子に、たとえば15分でも20分でもやれることが体力向上につながっていくという考え方であれば、継続してやるのは大事なことから、価値付けてあげる意味もある。

委員

では特に1行星印があるが、そこは運動のことは書かなくていいか。先の(分)だけ入れればよいか。1行詰めて、「運動時間」を消して、「運動」のところ(分)を入れて、あとは特に変えなくてよいか。小学校のポイント制をよくわかっていない。

委員

では説明する。たとえば寝た時刻の設定が9時半という目標を作った。月曜日の寝た時刻、9時半に寝られたら1ポイント。起きた時刻も6時半に設定しているので、この人は2ポイント目。そして朝ご飯も食べたので3ポイント、うんちが出たから4ポイント。これで1日フルで4ポイント。月～金で5日間あるので、 $4 \times 5 = 20$ ポイント、最高20ポイントという意味。私はこの例示を間違えたので、たぶん混乱させたと思う。直してくる。

委員

では中学も $4 \times 5 = 20$ で「目指せ20ポイント」で、こちらのチャートはこのままでよいか。

事務局

先に、ここをどのようにするというお話だったか。チャートは何か例示を先に持ってきて。

委員

畑先生のところの例示はいらない。この例示のところの数字を消してしまえば、たぶんこの線もなくなってしまうはず。

委員

レーダーだけ、点線の表だけでいい。それですぐ使えるようにすればいい。

事務局

白表というか、まっさらのもので、すぐに使えるようにしてしまえばいい。前回のものはいただいている。田中先生、このチャートのⅡ期というのがあるが、これはⅠ期、Ⅱ期は同じか。

委員

違う。具体的に言うと、漢字が使われているのか、いないのか。

事務局

では最初にこのポイントのものと、チャートのものがあって、あとチャートの白表のものがⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期とつながる。

アドバイザー

細かいけれども、「Ⅰ期」、「Ⅱ期」より、「Ⅰ期用」とか「Ⅱ期用」のほうがわかりやすい。

委員

いつまででいいのか。再来週くらいでいいか。なるべく12の週のはじめのほうに送る。

事務局

あと指導案の形態をある程度合わせたほうがよい。先生方に以前、本文は10.5ポイントでと、例示と一緒に送らせていただいた。その内容に一番近いのは、工藤先生のマット運動の表記。

左上に「学年」、「体育科」、「時間の扱い」、「器械運動」、右側に「部会名」、「重視する指導項目」とあって、「ねらい」と「本事例と体力向上との関連」。

委員

その前に、私もこのようにまとめたかったが、特に右上の「重視する指導項目」がどうしても、私も畑先生も書けない。何の指導案なのか、いまだにはっきりしない。

アドバイザー・委員

うだ。健康を保持増進する。ここに入っている資料はこの中のどれか。

委員

何がわからないのかわからない。どこまで揃えればいいのか。

事務局

この上は今、四角が二つあって、ねらいが次にあって、本時の事例と。

9ページが一番上にある「指導事例案」という言葉はなくてもいい。この四角の中をとりあえず入れる。この指導案の最初のところだが、今大きな四角が上にあって、①がI期における事例。②が実施学年・指導時数。ここまでをこの9ページの上の四角二つのような表記に変えることはできるか。

委員

たとえばこれで言うと「第1学年、特別活動、1時間扱い、『健康な生活—げんきなうんちとなかよくなろう』」とする。それで③を大きな1にして、「活動のねらい」にするのか。「ねらい」にしてしまってもいいのか。

事務局

「ねらい」でいい。それで④が2、⑤が3、⑥が4。今の一番上の左側に「第1学年、なんとか」というものがあって、右側に「部会名」。

アドバイザー

田中先生、細かいことだが、29ページの四角、学習指導要領の下の白丸が二つある。その上。これは「便の」？「に」？

委員

「便に」に直す。あと30ページの「単元のあらまし」はこの字体でいいか。大きなところはゴシックにして、子どものものは丸ゴシックにして、あとは普通の明朝。

事務局

これでいくと、工藤先生の15ページも同じような表記に変更できるか。

委員

わかった。「事例案」も取っていただいて結構だ。

事務局

今の15ページの工藤先生のところだが、番号の振りが、大きな1が「ねらい」。大きな2が「本時例」。(2)が括弧を取った大きな2になる。9ページ。大きな項目立てとして、1が「ねらい」。2が「本事例と体力向上との関連」。大きな3が「本事例が小中一貫教育校で期待される効果」。4が「指導計画」。それに合わせていただけるといいということ。同様に15ページ。

委員

では15ページも「ねらい」は1で、(2)が大きな2。これが3。それで「指導計画」が4になる。計画。「本時の指導」なのだが、これは何て書いているのか。本時の指導案と学習資料、使う資料という意味で(1)と(2)を載せている。

事務局

一応、他の部会も今の番号の割り振りで流れている。細かいことで申し訳ないが、全体表記の確認として「身に付ける」の「つける」は漢字で、「意識を持つ」とか「見通しを持つ」の「もつ」はひらがな表記でお願いしたい。今の内容を修正して、10月12日の週の中で資料をご送付いただきたい。今回はデータと紙ベースの両方で送っていただけるか。

委員

確認していいか。1が「ねらい」で、2が「本時例」。丸は付けない。私も田中先生と表記を合わせたほうがいい。3が来て、次の40ページの4は、「指導計画」。4「単元のあらまし」という言葉は入れておいていいか。

委員

もし送ったものに最終的にまた不足があったら、先生のほうでいじってもらって構わない。

事務局

送っていただいた後は、こちらとそれぞれ担当の先生との確認になっていく。最終的に上がったものに関して、米津先生や赤木校長先生等にもう一度確認していただいて、最終原稿を上げるという流れで考えている。教育出版からイラストも上がってくるので、それも併せて最終的にまとめていきたい。

アドバイザー

基本的に先生方は、もう一度自分の原稿を手直しするところも含めて、それぞれの担当の部分を見る。原稿は自分の頭の中で作っているから、自分は文章を理解できる。改めて他人が読んだときに、それで本当に意味が通るかどうかという目でもう一回見ていただいたほうがいい。

事務局

あとは時間との関係になるが、最終原稿は皆さんに送付したい。最終チェックをいただき、上げるという段取りを組んでいきたい。当面の目標は10月12日の週に一度上げていただくことでお願いしたい。

昨年度から進めていたこの委員会で、米津先生には本当にお世話になった。あと委員の皆様もご多用の中、それぞれの公務を抱えながらの資料作成、ありがとうございました。これが小中一貫と、これからまた小中一貫を目指していく、それぞれの学校において活用される資料を最後にまとめ上げて、少しでも役立つ資料になれば、皆様の努力が報われるような資料になればと思う。本当にありがとうございました。では、これで委員会を閉じたい。